

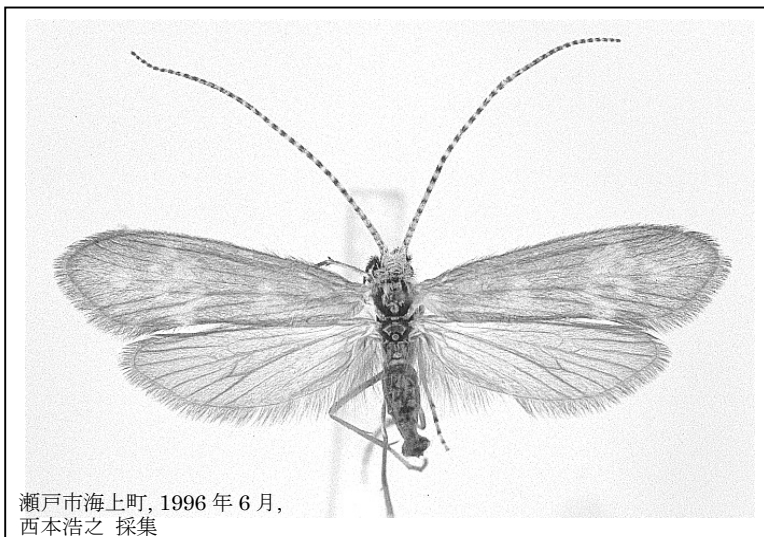
イトウホソバトビケラ *Molannodes itoae* Fuller et Wiggins

【選定理由】

全国的に採集例が少ない。愛知県内では瀬戸市海上の森と豊田市千鳥町でしか採集されておらず、希少であると考えられる。

【形態】

雄成虫の前翅長は 6.5~7mm、雌は 6mm。体色は茶色。前翅は淡黒色で不明瞭な淡色斑紋がある。頭部背面は白色毛で覆われる。終齢幼虫の体長は 8mm、頭部の色は後端の 1/6 を除いて濃茶、胸部のキチン板は茶色。後胸背面にキチン板はない。第 1~3 腹節背面に 2 又した 1 対の気管鰓（第 2 腹節の気管鰓は単一の個体もある）、第 2~3 腹節腹面に 2 又した 1 対の気管鰓、第 4~7 腹節腹面に 1 対の単一気管鰓を持つ。巢は砂粒で作られ、形状は扁平、しばしば巢の縁に植物片を付ける。巢の長さは最長 12mm。



【分布の概要】

【県内の分布】

瀬戸市海上町と豊田市千鳥町で確認されている。

【国内の分布】

北海道から本州関西地方にかけて生息が確認されている。

【世界の分布】

ロシア（サハリン）、日本に分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

山地および低地の細流に生息する。本州では成虫は 6 月に羽化する。

【現在の生息状況／減少の要因】

北海道では比較的広い範囲で採集されているものの、一度に採集される個体数は多くなく、愛知県からは瀬戸市海上の森でわずかしが採集されていない。本種の幼虫が細流という不安定な環境を好むことが一因として考えられる。

【保全上の留意点】

今以上の分布の拡大は望めないのが、現在の生息地の環境保全に努める必要がある。

【特記事項】

Molannodes コガタホソバトビケラ属の現生種は、タイプ種である *M. tinctus* (Zett.) とイトウホソバトビケラの 2 種のみである。*M. tinctus* は北ユーラシアから北米にかけて広く分布するが、イトウホソバトビケラは日本とその近辺でしか知られておらず貴重な種と言える。

【関連文献】

Ito, T., 1998. The family Molannidae Wallengren in Japan (Trichoptera). Entomological Science, 1 (1): 87-97.
西本ふたば・西本浩之, 1998. 愛知県のトビケラ相(第 2 報)・瀬戸市南東部、通称「海上の森」のトビケラについて.
名古屋女子大学紀要(家政・自然編), 44: 147-154.

(西本浩之)

県内分布図

